

## 令和2年度村上地域在宅医療推進センター事業実施報告

## (ア) 在宅医療に対する普及啓発活動

## ・令和2年度在宅医療普及講演会

令和2年11月29日(日)午後1時15分 参加者 約110名

〔内容〕・第一部：劇「話して気づいた！オレのしたいこと」

・第二部：講演「2020年コロナの時代を生き抜くために 新・人生会議」

講師 ふじ内科クリニック 院長 内藤いづみ 先生

## ・村上地域在宅医療推進センターホームページ開設

開設日：令和2年3月

内 容：推進センター事業案内、医療介護資源情報、作業部会の紹介等

## (イ) 在宅医療関係者に対する人材育成事業

## ア 医療介護関係者講演会（訪問看護との共催事業）

令和2年11月12日(木)午後6時～7時 出席者 175名

〔演題〕「新型コロナウイルス感染症について」

講師 厚生連村上総合病院 呼吸器内科医長 上野浩志 先生

## イ ICT活用推進研修会

令和2年12月15日(火)午後5時30～7時40分 出席者 31人

〔内容〕実践報告：「多職種連携におけるICTの効果的な活用について」

訪問看護ステーションふる里 管理者 板垣かなえ 様

説 明：「ときネット患者登録から多職種連携までの流れについて」

グループワーク：同職種同士での小規模グループを作り意見交換会

(2部形式)

## (ウ) 各種会議の開催

## ・専門作業部会 ①医療相談員 ②地域リハビリ ③栄養士会 ④地域課題検討

## ・ICT対策会議

日時：令和2年9月24日(木)午後6時～7時30分

会場：村上市岩船郡医師会館

検討内容：ときネットの登録者及び参加施設を増やし効果的に活用するための  
具体策の検討

## ・実務者会議

月日：・令和2年4月10日～ 令和3年3月 迄毎月1回開催

会場：村上市岩船郡医師会館

検討内容：各種会議、事業の企画運営、地域課題の検討等

# 在宅医療・介護連携支援センター報告書

(村上市)

団体名 村上市地域包括支援センター

代表者名 田中 加代子

## 1 報告

在宅医療・介護連携支援センターとして、主に個別事例の対応を行っています。

個別事例	<p>・ケース1 認知症の進行により、定期受診が1年間できていなかった事例 お正月に家族が帰省し、数日間高齢者と過してみたら、認知症であることが分かった。冷蔵庫の食材は腐りかけていて、聞けば市場や魚屋に出かけて買い物をしていると言うが、その形跡はなく、介護認定申請をすることになった。かかりつけ医に受診すると、高血圧と糖尿病で内服が必要な状態にも関わらず、1年間受診していなかったことが判明した。薬剤師に居宅療養管理指導で入ってもらい、家族が毎日内服時間に合わせて連絡を行い、内服管理をすることになった。町内の人も尋ねることがあったが、短時間の会話ではわかりにくい。新型コロナウイルス感染症のため外出を控える高齢者は多く、このような方が増える恐れがある。通院が途絶え、気になる患者様がいたら、地域包括支援センターに情報提供をお願いします。</p> <p>・ケース2 がん終末期で自宅療養を本人が強く希望した事例 大腸がん、前立腺がんで治療を行ったが、自宅に帰りたくいと退院して来た70代の男性の妻からの連絡で訪問すると、終末期の状態。本人の意思で入院はしたくないとのこと。家族も入院をあきらめ、開業医の先生に往診してもらえるのであれば、自宅で看取りたいとの意向。病院から開業医の先生に診療情報提供していただき、早速その晩に往診していただいた。その日を含め、数度往診ののち、2週間ほどでお亡くなりになった。妻から亡くなった後に連絡があり、先生への感謝と共にこちらにも感謝の言葉をいただいた。 このように本人の意思がしっかりとあり、家族が介護できて、往診含め訪問診療があれば在宅での看取りがかなえられると感じた。</p>
成果・課題等※	<p>・高齢になっても通院できるうちはいいが、認知症の方や受診介助できる家族がいなかったりして通院できなくなったら、医療の継続が難しくなり、体調悪化、病気が進行する。このような状態になる前にどういう対策が必要か検討する必要がある。</p> <p>・高齢者人口の3分の1は単身高齢者または高齢者のみの世帯であるため、介護者が居なかったり、老々介護となる。また複合家族で、家族が居ても勤めている人が多く、重度者を在宅で介護するには、介護サービスがあっても、24時間365日すべては賄いきれない。</p>